

1. 本研究の経過

(1) 科学研究費の採否

2011 年秋に、本研究の継続にむけて、つぎの 2 件について新たな研究の申請（平成 24 年度用）を行った。

- (a) 基盤研究(A)「未利用の海外所在東アジア近代地理資料の集成と活用」
- (b) 研究成果公開促進費（データベース）「アメリカ議会図書館蔵 初期外邦測量原図データベース」

(a) 基盤研究(A)

以上のうち基盤研究(A)については、4 月初めに不採択の通知があった。その後受け取った審査結果をみると、①研究課題の学術的重要性・妥当性の平均点は 3.40（採択課題の平均は 4.00）、②研究計画・方法の妥当性 2.40（同 3.00）、③研究課題の独創性及び革新性 2.60（同 3.00）、④研究課題の波及効果及び普遍性 3.00（同 3.50）、⑤研究遂行能力及び研究環境の適切性 2.80（同 3.25）と、すべての項目で採択課題の平均を下回った。前々年度および前年度の申請（それぞれ外邦図研究ニューズレター 8 号 1 頁、9 号 1 頁参照）と比較すると、①ではやや高まったものの、②、③、⑤では低下しており、申請書の改善は評価されなかったものと判断された。

このため 2012 年秋には、新たな申請書「アジア太平洋地域に関する未利用の海外所在地理資料の集成と活用」を準備し、学内受け付けを 10 月 23 日に終了した。

ところが、10 月 26 日になって、大阪大学文学研究科会計係より、この申請について追加交付の予定である旨メールがあり、その予定額は申請書の 3 分の 2 ということであった（平成 24 年度の直接経費は、申請では 12,800 千円であったのに対し交付額は 8,600 千円）。すでに年度の半ばを大きく過ぎており、また直接経費は大幅に減額されているが、この追加交付を受けることとし、11 月初旬に交付申請書を提出した。ただし、不採択通知後に受け取った審査結果から受けた印象とこの追加交付を整合的に理解するのは、今でも容易ではない。

ともあれ、残された 2012 年度の月数は 5 ヶ月しかなく、分担者との連絡を急ぐこととなった。

(b) 研究成果公開促進費（データベース）

他方、もうひとつの申請である研究成果公開促進

費（データベース）の採否の通知はおくれ、4 月 24 日となった。翌 4 月 25 日から 5 月 6 日まで、後述するようなゴールデンウィークを利用したアメリカ議会図書館への出張があり、交付申請書は大阪大学文学研究科人文地理学教室の波江彰彦助教とメールで連絡しつつ提出することとした。なんとかこの提出を終えたのが 5 月 2 日である。

(2) 調査活動

海外調査

- ① 2012 年 3 月 31 日～9 月 30 日、鳴海邦匡（甲南大学文学部）がアメリカ議会図書館（ワシントン）で甲南大学在外研究員として調査をおこなった。同館の地理・地図部（Geography and Map Division）に所蔵される資料のうち、旧日本軍によって作製された地図や空中写真などを対象とする調査のため、Short-term Scholar として、広大な書庫への立ち入りも許されることとなった。これまで多くの日本人研究者が同館で資料調査をおこなってきたが、地理・地図部での長期間の作業は今回が初めてで、日本軍作製図に影響を与えた欧米製海図の探索も進み、今後の調査に大きな見通しを得た。
- ② 上記の鳴海邦匡の長期出張にあわせて、2012 年 4 月 25 日～5 月 6 日、小林茂（大阪大学名誉教授）がアメリカ議会図書館ならびに同国立公文書館 II（College Park）で調査をおこなった。この費用は片山剛大阪大学教授（東洋史）が研究代表者をつとめる科学研究費基盤研究(A)「中国における土地領有の慣習的構造と土地制度近代化の試み」によった。とくに南京周辺の戦前期の大縮尺図ならびに空中写真を閲覧撮影した。
- ③ 2012 年 8 月 28 日～9 月 3 日、小林茂が台湾で調査をおこなった。やはり片山剛教授の科学研究費基盤研究(A)により、台北新店の国史館での地籍調査関係資料を複写するとともに、桃園台地の観音郷で戦前期～戦後期のため池管理の変化について現地住民を対象にインタビューした。この際の通訳は 2012 年 3 月にお世話になった池田若菜さん（台湾師範大学大学院生）の紹介により、蕭諺鴻氏（輔仁大学日本語学科大学院生）にお願いした。外邦図研究ニューズレター 9 号掲載の「台湾桃園台地灌漑水利の発展と水田開発」の成果をもとに、桃園農田水利会の徐繼鵬主任工程師の助力も得て有意義な調査となった。



観音郷の桃園農田水利会新坡工作站で地図を拡げながら長老の葉阿海氏と卓遵炮氏（左手前）よりため池の変化を聞く通訳の蕭諺鴻氏（右手前）（2012年8月30日）。

- ④2013年1月5日～9日、山本健太（九州国際大学経済学部）が台北の中央研究院でとくに歴史GISに関連する中央研究院の各種計画の実施状況や施設・設備を視察した。2012年11月に追加交付された科学研究費（基盤研究(A)「未利用の海外所在東アジア近代地理資料の集成と活用」）を使用した。同研究院の廖汝銘助技師ならびに東華大学の郭俊麟助理教授に案内をいただくとともに、今後の外邦図研究に関する協力体制についても意見を交換した（本誌25-29頁掲載「台湾視察の報告」を参照）。
- ⑤2012年11月に追加交付された科学研究費（基盤研究(A)「未利用の海外所在東アジア近代地理資料の集成と活用」）により、ワシントンのアメリカ議会図書館、同国立公文書館Ⅱ（メリーランド州College Park）で、下記の日程により調査をおこなった。

山本晴彦（山口大学農学部／農業気象学：戦中期気象観測データの探索）：2月19日～3月3日

小林茂（大阪大学名誉教授／人文地理学：外邦図および戦中期気象観測データの探索）：2月19日～3月10日

片山剛（大阪大学文学研究科／東洋史：中国の近代地図の探索）：3月2日～13日

山本一（大阪大学文学研究科／東洋史：中国の近代地図の探索）：3月2日～13日

鳴海邦匡（甲南大学文学部／歴史地理学：東アジア海図の書誌学的調査）：3月3日～13日

中辻享（甲南大学文学部／人文地理学・地域研究：焼畑耕作の長期変動の研究に向けた東南ア

ジアの空中写真の探索）：3月10日～23日
 佐藤廉也（九州大学比較社会文化研究科／地理学・文化生態学：中国の地図と空中写真の探索）：3月12日～27日

なお、当初は財城真寿美（成蹊大学／気候学：19世紀気象観測データの探索）も参加する予定であったが、個人的事情のため、やむなく中止した。



アメリカ議会図書館マディソン館前での記念写真。背景はジェファーソン館。左より片山剛、いつもお世話になる藤代真苗氏、山本一、鳴海邦匡（2013年3月8日）。



お世話になったアメリカ議会図書館地理地図部のMin Zhangさん（中央左）とTammy T.Y. Wongさん（中央右）とともに。左端は鳴海と小林、右端は片山と山本（2013年3月5日）。

国内調査

2012年10月24日に防衛省防衛研究所で、準備中の「アメリカ議会図書館蔵 初期外邦測量原図データベース」に掲載予定の、朝鮮二十万分一図（同研究所千代田文庫蔵）について掲載許可手続きをおこなった。また同日午後には気象庁図書館で財城真寿美成蹊大学准教授、松本淳首都大学教授とともに戦中期気象観測資料の調査をおこなった。さらに翌10月25日には、再度防衛省防衛研究所で戦中期の海外における測量に関連する資料の調査をおこなった。

研究成果公開促進費（データベース）のための会合

「アメリカ議会図書館蔵 初期外邦測量原図データベース」の構築に向けた会合を、とくにそれで使用するソフトであるイパレット・ネクサスの開発者、津田光弘氏を囲む形で小林茂・波江彰彦、神阪吉史氏（堀内カラー）のほか、アルバイト学生の葛馬侑君、小林基君、岡田聡君も参加して、つぎのような日程でおこなった。12月21日には山本健太（九州国際大学）も参加した。

2012年5月9日、同11月1日、同12月21日、2013年1月16日、同2月14日、同3月11日、同3月28日。

学会発表・講演

- ①小林茂・森野友介・角野宏・多田隈健一・小嶋梓・波江彰彦「植民地期以降の台湾桃園台地の灌漑水利におけるため池の変遷—GISを援用した分析」人文地理学会大会、2012年11月18日、立命館大学（『2012年人文地理学会大会研究発表要旨』66-67頁）
- ②財城真寿美・小林茂・山本晴彦「京城公使館における気象観測記録とその気象学史的な位置づけ」日本地理学会春季学術大会、2013年3月29日、30日、立正大学（『日本地理学会発表要旨集』83、343頁）
- ③小林茂「地理情報の整備と社会」放送大学講義、グローバル化時代の人文地理学、2012年度～2015年度に放映（テキストは小林茂・宮澤仁編『グローバル化時代の人文地理学』放送大学教育振興会、30-43頁 [2012年3月刊]）
- ④小林茂「外邦図：軍事情報から近代資料へ」放送大学特別講義（2013年度放映予定、4月28日 23:15～、9月7日 16:00～。なお学生用にはインタ



データベースのインターネット公開作業を終わって（2013年3月28日）。



顧立舒君と森野友介君によるアメリカ議会図書館蔵、初期外邦測量原図の画像の加工のビデオ収録（2012年6月28日）。

ーネット配信の予定)。なおこのためのロケ撮影を2012年6月28日に大阪大学で、ビデオ収録を7月26日に幕張の放送大学スタジオでおこなった。

2012年度に発表された外邦図関係論文・データベースなど

- ① Kobayashi, S., Japanese mapping of Asia-Pacific areas, 1873-1945: An overview. *Cross-Currents: East Asian History and Culture Review*, 1: 137-171. (2012年5月刊)
- ②小林茂・山近久美子・渡辺理絵・波江彰彦・山本健太・鳴海邦匡「アメリカ議会図書館蔵 初期外邦測量原図データベース」大阪大学文学研究科人

文地理学教室 (2013 年 3 月)

URL: <http://www.let.osaka-u.ac.jp/geography/gaihouzu/earlymap/>

なお、本データベースの解説、小林茂・山近久美子・渡辺理絵・波江彰彦・山本健太・鳴海邦匡「アメリカ議会図書館蔵 初期外邦測量原図データベース 解説」は本誌 5・17 頁に掲載している。

受賞

小林茂が『外邦図—帝国日本のアジア地図』(中公新書 2011 年刊)により人文地理学会賞(一般書部門)を受賞した (2012 年 11 月 17 日)。